

## 学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名「熊本県立宇土中学校・宇土高等学校」

住所：熊本県宇土市古城町63

電話：0964-22-0043

### I 学校の基本情報

○生徒数：849人（24学級）

○職員数：83人

○熊本地震の状況

生徒954人、重傷1人、軽傷1人

教職員89人、負傷者なし

第2棟特別教室3階 総合教室1～3（壁面、天井部分）、各棟のつなぎ目、渡り廊下損壊  
理科棟（天井板）、図書館（壁面）、第一体育館（天井の照明）、柔道場（天井板）

慰霊塔損壊、同窓会館損壊

2月・SSH学際研究発表（防災研究班）

・AED講習会（職員）

3月・次年度に向けての在校生のマイタイムライン及び引き渡しカードの更新

#### (2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

火災発生後の防消火避難訓練を行った。今回は、一部渡り廊下の損壊を設定したブラインド訓練を行った。さらに、本校で初めて全ての防火扉を閉じ、日常とは違った校内で、職員、生徒の災害時の防災意識を高める訓練とした。

#### (3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

6月・第1回推進員会及び防災主任研修会

8月・第2回推進員会及び防災主任研修会  
・学校安全支援事業に係る先進校視察（高知）

9月・公開授業（本校）

10月・公開授業参観（熊本県立松橋支援学校）

11月・公開防消火避難訓練（本校）

12月・第3回推進員会及び防災主任研修会

2月・学校安全総合支援事業全国成果発表会（オンライン）

上記の研修や現地を視察することで、防災教育の重要性を改めて考える1年となった。

#### (4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

・危険機管理マニュアル及び学校安全計画の

職員への周知を図ると共に研修を重ねる。

・避難訓練（地震・火災）においての生徒の避難誘導の在り方や安否確認の手順を確認する。

・各教科の単元を検証し、防災を含め安全安心に関わる内容を年間シラバスの中で取り組む。

・休日における情報伝達訓練（安否確認）を通じ、生徒および保護者、職員の安否、被災状況など迅速に把握できる体制を構築する。

#### (5) AEDを用いた心肺蘇生法

職員および運動部活動の部長等の生徒を対象に、AEDの講習会を実施。（10月の予定から行事日程の都合で2月に変更）

### II 取組の概要

#### 1 安全教育手法の開発・普及

##### (1) 防災教育の実施

4月・中高新1年生に津波対応の避難場所確認および全生徒対象にマイタイムライン、引き渡しカードの作成  
・避難訓練（地震・津波）  
・職員研修（防災・危機管理マニュアルについて）

5月・第1回情報伝達訓練（安否確認訓練）

6月・生徒防災委員会主催による「梅雨」の季節に向けての水害関連の防災動画の視聴

7月・学校主催全教科公開授業（防災関連の授業を含む）

9月・文化祭で防災委員会・SSH防災研究班による展示ブース設置し啓発活動を行う（熊本地震パネル展示、防災マップ、非常食の研究等）  
・公開授業（中学3年美術における防災を含む研究授業およびSSH学際研究防災班によるプレゼンテーション）

・校内での「大学、官公庁、企業の協力による防災・減災・インフラ事業に関する展示ブース」の見学

11月・公開防消火避難訓練

・「先進建設・防災・減災技術フェア」展示ブース開設および見学（中学3年、防災委員会、防災研究班）

・第2回情報伝達訓練（安否確認訓練）

### Ⅲ 取組の成果と課題

#### 1 安全教育手法の開発・普及

##### (1) 防災教育の実施

###### ア 成果

中学3年生の美術の授業課題の1つで9年目となる「紙工作：ペーパーブリッジ制作」を通じて、橋の構造を含め、インフラの重要性や防災・減災について、熊本大学や橋梁関連企業の講師を招いて授業を実施した。また熊本大学、県土木課、砂防課、一般企業の協力を得て、防災・インフラ事業に関する展示ブースを設け、中学3年と高校1年に見学してもらい、直接話を聞くことで、防災意識をより高める機会となった。



(講師による授業) (展示ブースの見学)

「先進建設・防災・減災技術フェア」では、中学3年生と高校SSHの学際研究：防災研究班と防災委員会が参加して、来観者へ展示物のプレゼンと会場見学を行った。その後、高校生は、阿蘇の「熊本地震震災遺構ミュージアム」を見学し、「見学をとおして、阿蘇には大きな被害があったことをはっきりと認識させられた気がします。」などと感想を述べており、当時の災害の大きさを実感した。



(見学の様子)

また、全教科のシラバスに防災を含めた学校安全・安心に関する授業内容を盛り込むことで、生徒・職員の防災意識の向上を図った。

###### イ 課題

外部講師の招聘や、校外のイベントに参加させることで生徒の興味関心が高まっているが、この企画を維持するための予算が厳しくなっている。今後、運搬費の高騰でさらに問題が増えると思込まれる。今回の大学、官庁、企業等による展示ブースは、全て御厚意で協力頂いている現状である。

##### (2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練

###### ア 成果

地震に関連した火災避難訓練における避難行動および安否確認の訓練を実施した。特に今回初めて、全ての防火扉を閉じる対応を取り、非日常の光景を見ることで改めて避難についての意識向上を図った。また一部渡り廊下の損壊を想定し、ブラインド訓練も実施

した。複合的な災害を想定した訓練だったこともあり、シェイクアウト訓練は迅速な対応ができたが、職員の避難誘導の在り方や危険回避の対応や安否確認の連絡系統に課題が生じた。この訓練により、職員の共通理解や職員研修の在り方を再度検討する契機となった。

###### イ 課題

職員の発災時の対応や生徒誘導についての研修は、行動訓練を含め職員間の連携を深める内容に改める必要がある。

##### (3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

###### ア 成果

防災主任研修や先進地視察等で、防災の重要性を再認識すると共に、防災マニュアルの周知を図り、研修で防災関連動画を視聴して、生徒・職員の命を守る行動について職員間の共通理解を深めた。

###### イ 課題

年間を通じた防災教育や学校安全計画を再構築し、全教科を通じて安全教育に関わる内容をシラバスに含め、職員間でも理解を深め継続的な取組にする必要がある。

##### (4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

###### ア 成果

今年度避難訓練は、複合的な災害内容で訓練を行った結果、避難誘導や状況確認、点呼等において、多くの課題および研修内容の改善点を見いだすことができた。また、各教科において、防災を含め安全安心に関わる内容を授業で取り組み、教科の特性を活用した教育内容の研究が進んだ。

###### イ 課題

避難訓練では、職員アンケートに、「昼休みや掃除の時間など生徒が混在する時間帯に実施する必要がある」などの訓練内容や訓練に対しての職員間の温度差や意思疎通をどう図るかなど、より実践的な研修につなげる必要性を求められた。

##### (5) AEDを用いた心肺蘇生法

###### ア 成果

職員研修で、AEDの使用方法を含めた心肺蘇生法(心臓マッサージ・人工呼吸・エピーペンの使用方法)を学び、緊急時の対応に備えた研修を行う。

###### イ 課題

行事日程調整のために2月実施となった。今年度は部活動中の事故などを想定し、生徒が自ら緊急時に対応できるように生徒の参加も計画していたが、次年度に延期となる。